

- (委員) 挙げられている課題はどれも大事なことだが、まち協でということを見ると、「世代間交流の拡大」は少し取り組みやすいと思う。世代間交流が広がれば、学校との連携や町内会活動などの周知といったところにも広がって、色々なところに派生していける可能性はあるのではないかと見ている。まち協で取り組めるということと広がりを含めると、世代間交流ということかと思う。
- (委員) 協議会としてこれから取り組んでいく中で、福祉の関係や地域の課題と今できることの整理など、その通りだと思う。独居老人等への積極的な声かけも非常に大事なことで、これからそういう独居老人はますます多くなってくると思うので、声かけをどういう形で進めていけばいいのかということもあるが、この辺も大事なことだし、外に出てこない高齢者を外に出すための工夫、これも非常に大事なこと。文教地区であることを活かした周囲の学校との連携ということで、この地区でいうと南高や工業高校があるので、私ども市民委員会等では色々な形でお互いに利用させていただいている。今年はコロナの関係であまり店などはなかったが、南高の学校祭では市民委員会として出店協力したり、南高からは冬のボランティア活動として除雪関係で困っている高齢者宅の間口除雪など積極的に応援いただいているし、地域行事に南高や工業高校のジャズバンドなど積極的に出ていただいているということもあるので、この辺は非常に大事なことではないかと思っている。世代間交流の拡大を含めて、どれも欠かすことのできないものではないかという感じを受けた。
- (会長) 声かけと世代間交流など繋がっていくところがあると思う。最近、私の地域でも、一人暮らし高齢者の安否を2日くらい誰も知らなかったという話があったので、やはり地域での見守りや交流は大事になってくると思う。
- (委員) なかなか簡単にはというのはあるが、協議会委員が毎年実行委員会を設けて、今年はロコモと防災というような形で色々事業を展開しており、他の機関への働きかけというところがおがましい部分はあるが、昨年色々な連絡先などを掲載したリーフレットを作成した。そういうものを使ってというよりも、そういうところへの働きかけや連携を取りながらやっていかないと中々難しいところはあると思う。人材バンクではないが、どういうところに連絡をしたらこういう困り事的なものが解決できるのかというネットワーク的なものを作っておくことも必要だと思う。
- (委員) ここに出ている課題はすごく大事なことばかりだが、私の中で「まち協でやるのか、社協でやるのか、市民委員会でやるのか」という整理が中々つきづらい。例えば、旭神なら高齢者と子どもの餅つき大会とか過去やっていたが、今年は中止。福祉の面もあるし、世代間交流もあるし、そういうものをそれぞれのセクションが単独でそれぞれ色々考えながらやっていると思う。民生委員は民生委員で考えているし、そこの区分け・整理がつかない。まち協というのはどのレベルのどのようなものであるかというのを自分がまだ分かっていないので、あまりいい案は出ない。例えば5つの市民委員会が合同で、コロナ禍の中でもできることを考えてやろうというようなことかと思ったりしているが、正直まだピンときていない。色々な団体が同じようなことを考えていると思うが、ピンポイントで高齢者だけ狙っていくなら案も色々あるが、まち協はちょっと違うのかと思ったりしていて、整理がついていないので、中々いい案は出せない。
- (会長) まち協の性格についてということで、これは社協の分野なのか、福祉の包括でやるようなことなのかなど色々あるが、まち協は何か、まち協のやるべきことは何なのかということも大事なところだと思うが、まずはご意見として伺っておく。
- (委員) 少し別な観点だが、文教地区という言葉に非常に引っかかる。文教地区とは一体何なのか。そこに勢いがあったり、若さが感じられたりということなのかと考えた時、私もよく「この地区は文教地区です」などと使うが、どこが文教なのか分からない。実際、今このグリーンパルで、高校生がすごく一生懸命勉強しに毎日のように来ていて、利用者もすごく多いが、なぜこの雰囲気があちこちにはないのかと思っている。僕らの若い頃のイメージといえば、文教地区といえば大学の側に喫茶店があって、公園で歌声をやっていたり、何かやったりする雰囲気があった。てんでバラバラの存在なのかと考えた時に、何か寂しく感じる。本屋があったり、喫茶店があったり、そんな感じが全く感じられない。

世代間交流と関連があつて、私達は世代間交流というと、子どもと高齢者というイメージで、その中には中学生や高校生が抜けている。南高のボランティアの話は聞いているが、そうではない世代のところと大人でいうと30~50代くらいまでが抜けている。幼保と高齢者とか、小学生と高齢者の交流というのは結構どこでもやっているが中間がないので、その何かを考えられないかと思う。

(委員) 先ほど話があつたように、まち協の在り方・取組の仕方について、私は社協に属しているが、他の団体と取組の仕方が全く同じ方向に向かっている。以前、市民委員会にも属していたが、同じ方向でいっていると思う。そうすると、地域住民がまち協の事業、市民委員会の事業、社会福祉協議会の事業、民生委員もそうだが、さらに包括の事業とか、どの事業も区別がつかないような状況になっているのではないか。個人的な意見だが、やはり一つの事業をやるには関連する他団体と手を組みながら一本化して地域のための事業をするべきではないか。先ほどもあつたが、世代間交流というと本当に幼児から子ども、中学生・高校生もそうだし、大学生もそうだし、仕事をしている世代、さらに高齢者と、これを含めた世代間交流がこちらである課題解決するための各項目、福祉の強化は分からないが、独居老人等への積極的な声かけなどにリンクしていくのではないか。確かにまち協の取組としては、世代間交流を発信して各方面にリンクするという形が一番ベストかと思うが、他団体も同じ方向に向かつて活動しているとなると、正直地域の方が活動元の区別がつかない。市民委員会にいた時に、まち協は何をすべき方向に向かっているのか、市民委員会の活動と殆ど同じではないか。そんな形があるので、世代間交流とか大きい事業であれば、市民委員会とか社協とか民生委員とか医大関係者とか、大きい一つのプロジェクトで何かやるべきかと考えている。特に、神楽地区は花火大会とかすごい大きいプロジェクトをやっているの、何とか緑が丘地区も旭川市を代表する大きい世代間交流の事業をやっていただきたいと個人的な意見として思っている。

(委員) これまで出ている意見もよく分かる。それぞれがそれぞれのことをやって、一本化してというか、色々な立場の人が集まってこのまち協が成り立っていると思う。地区市民委員会の会長を含め、社会福祉協議会の方、学生、色々な人が集まって素晴らしい組織になっている。せっかくいいところまでいったところにコロナがあつたり、高齢化していった弊害になってきているというか、せっかく作り上げてきたコミュニティが崩れてきているので、これをもう一度見直していくというか、作り上げていくということが大事だと思う。

今はもう事業としてはまち協から離れたが、「くるりん」という事業がある。高校生を含め、大学生も入って、地域の子も達と親も入ってやっていた事業で、今もグリーンパルで月1回やっている。民生児童委員の方が一生懸命おにぎりを作って、小さい子ども達が来て、高校生が来て、医大生が来て、子ども達の学習を見て、どこの地域でもやっているかもしれないが、補助が外れて本当は独り立ちしていかなければ駄目だが、お金の問題などあり中々難しい。でも、今まだ潰れないでやっている。もっと広がっていけばいいと思いつつ、芽まで出たものを育てていくのは一体誰なのか？という部分の中々難しいところ。

世代間交流事業は今またスポーツクラブでやる予定だが、全地域の人が集まってきて、外に出てこない人を呼んできたり、独居老人を集めてきたり、そんなふうにして一大イベントが出来ればいいが、このまち協でやるわけだから、ここにいる人達が中心になってやっているから、それぞれの立場の人が来ているので、そこに働きかけながら少しずつ広げていけばまたいい事業になっていくと思う。

2・3年補助金でやった後が問題で、そこで作り上げたものをどう地域に広げていくかということがない。だから、花火のように散って無くなっていった、また違う事業をやっても難しいと思う。そこを、色々な立場の人が集まっているこのまち協の組織でどう継続していくか、繋げていくかということが課題かと思う。

過去の事業を見ると、いい事業を沢山やってきている。ロコモも緑が丘5地区でまち協中心にやってきて、参加者がだんだん増えて、地域でもこれはいい事業だとなって広がってきて、今この緑が丘まち協の一つの目玉になっている。他の地域ではやっていないと思う。なぜできるかという、この地域に医大があるからで、この地域の特性を活かしてやっていると思うが、まち協から離れた時に地域の人がやっていけるかということその力がないというか、それをどうやっていったらいいのか悩んでいるところ。

世代間交流事業は5地区から集まって以前もやったが、沢山人が集まって学校中心に回ってやっていた時に、初めて見た時「すごいなあ」と感じた。市民委員会の人がいて、子どもがいて、高齢者がいて、地域皆で作り上げている。ずっと繋げてやっていけなかった事業を、この地域で「よし、まち協から離れてもうちの地域でやっていくぞ」となっていくための何かが足りない。それが何かは分からないが、そういうところもひよっとしたらまち協の組織なのかもしれない。悩み事を言って申し訳ないが、そんなことを思っていた。

(会長) 地域の特性を活かした継続した取組みたいなところもあるが、そういうのが何かという辺りはこれから相談していかなければならない。

(委員) 今年、緑が丘まち協にきたばかりでそこまで分からなかったが、その前に神楽まち協に4年ほどいて、神楽でも自宅から出られない高齢者を呼んでカラオケをしたり、子ども達の勉強を教えるために高校生や大学生を連れてとか、そういうことを持続していたのがいい部分でやっていると思うし、緑が丘も先ほども色々お話があったとおり、いいところを持続していくことも大事だと思う。

消防団でも毎年秋に独居老人のところに行って話を伺ったり、こういうことに気をつけてくださいとか、火事に気をつけてくださいという話を何軒か回ることがある。ここ2・3年はコロナでやっていないが、そういうのも話しながら、何かあればこういうイベントがありますよということをお話できたらいいと思う。

(委員) 私は民生委員になって今年で10年目になる。色々お手伝いしている中で、今はコロナで行っていないが、学校にも行かせていただいたり、色々させていただいているが、10年経ってやっと民生委員のことが少し分かるようになった。

色々参加させていただいているが、何がどうなのかまだイマイチ分かっていない。まち協委員としては今年一年生で、何かお手伝いしたい気持ちはあるが、まだ中身が分かっていないので、これから頑張りたい。

(委員) まち協が何するところか分からない。半年経ち、2ヶ月に一回会議があるが、未だに自分の役割というか、この会の役割とか、何をやっているところかよく分からない。ただ、この課題を見ると、独居老人への声かけとか、先日テレビで、大学生が授業の一環で高齢者宅へ行き、生まれてから今に至るまでの自分史を語ってもらうというのを見た。最初は学生に協力するという感じだが、いざ学生が行くと本当に楽しくて、終わる頃には「お茶飲んでいきなさい」「おまんじゅうどうだい」「もう帰っちゃうのかい。また来ないかい」というようなことを言うてくれるというのを見た。

確かに、世代間交流という老健施設と保育園みたいな形のことしか考えてなかったが、もう少し中間層の方々に活躍してもらえるような何かあってもいいのではと思う。

(委員) 独居老人への声かけをしないといけないことや、町内会の会員数の減少も全て、隣近所の支え合いや助け合いの希薄化に繋がっていると資料を見て思った。

皆さんが言っているとおり、世代間交流の拡大をすることや他団体と協力し合うことで助け合う形が生まれると思った。

具体的な話はあまりできないが、今、緑が丘まち協としてやっていることで、防災リーダー研修会や防災キッズの取組があるが、そこに保護者世代も一緒に加わって防災活動をどういうふうにしていけばいいのかを考えることができれば、防災活動に加えて世代間交流も生まれると思った。

(委員) 私は、まち協という組織が、色々な事業を通して地域住民の繋がりを作っていて、役割が他の組織と被っているという点や、実施している事業の中でも参加者の幅が限られているなど、まだ課題があると皆さん仰っていて、私も思ったが、ここで生まれた交流というのは地域の課題の解決、助け合いの希薄化などに繋がると考えたので、まずこのような事業をこれからも拡大していくことと、まち協自体がどのような役割を担っているのか明確化されることが、地域の課題の解決に繋がるのではないかと考えている。

(委員) 緑が丘地区の小中学校の代表という立場ということを見ると、軽はずみなことは言えないが、子ども達が普段からこういう地域で過ごしていることについて、本当に有り難いと感じている。

今、様々な活動が制限されていて、各学校間での繋がりも行き来も中々しづらい状況で、地域のことを十分理解していない中であまり意見を言うことはできないと思って

いるが、地域の課題が沢山あるのは分かるし、どれもこれも大切な問題ということとはよく分かった。

学校の立場でいうと、学校が抱えている課題というのも本当に複雑になっていて、コロナ禍によってますます色々なものがどんどん急激に変わってきている中に子ども達もいて、職員もそれに対応するためにはかなり労力を費やしている状況。

今、学校の中でいつも考えているのが、どんなに人が変わっても続けなければいけないものを続けていくのは何なのかという辺りを、もう一度整理して見直している。この機会を通して、これまでやってきたものを踏襲するのではなく、思い切りスクラップしてもう一回作り直すという活動を考えているところで、次年度以降に向けてどんな活動をしていくかということとを計画している。まだ、具体的な案は中々出てこない状況だが、学校としては本当に子ども達が好きと感じるものが中々できない状況にあるので、子ども達が学校に来て楽しいと思えるようなことを少しでも作ってあげたいということで、コロナ禍でも楽しめる行事を企画しているところ。

また、楽しいだけではなく、やはり安全でなければいけないし、子ども達が安心して過ごせる地域づくりをしていただきたいと思っている。様々な不審者情報が飛び交い、色々な情報がある中で子ども達を本当に安心して安全に登下校させることができるかという部分も実際ある。そういった時に、地域の皆さんにも力を借りながら見守りをしていただいている。PTA活動として、本校ではネームプレートを各家庭に配って、登下校時、いつでもいいので見守りをしていただくような活動を今年から始めたところだが、少しでもいいから子ども達の登校時間に家の前にいて声をかけてくれるとか、帰りの時間帯に家の前で構わないので子ども達を見守ってくれるとか、そんな地域との繋がりがあれば子ども達は本当はいいだろうと思っている。誰を見ても知らない人から声かけられると不審者と間違われてしまうような社会の風潮があって、それを何とか打ち破れるような顔見知りの近所のおじさんおばさん、おじいちゃんおばあちゃんと繋がりを持てるような毎日の挨拶運動ができるだけでも有り難いと思っている。

大きな事業は中々大変だと思うので、毎日できる小さなことで繋がりを何とか保っていけないかということがある。各団体での事業が錯綜している中で、多分運営するのも大変だと思う。人も少なくなっている、段々年齢を重ねていく中で運営する側の人数も足りなくなっていくようであれば、それを上手にこのまち協が中心となって繋がりを整理して事業を一本化する、整理していくことも大事だと思う。

子ども達は結構多忙で、私達の子どもの頃とは全く違って、何らかの習い事に行ったり、少年団活動があったり、本当に忙しく動いている。

先日、クラブ活動があって、放課後何もない日があり、1時間ぽっかり空いた時間グラウンドが空いていて、そこに子ども達が自然と集まって野球をしていた。普段全くそういうことは出来ない。そういうぽこっと空いた時間に、子ども達がそこを楽しむぐらい子ども達はそういう集まれる時間すらないような毎日生活をしていることが分かる。そういう子ども達、そしてその保護者も当然忙しいと思うので、何とか皆が参加できるというのは中々難しいだろうが、ちょっとした事業で構わないと思うので、世代間交流でも何でもいいが手を広げ過ぎないで長く続けられるものを何か生み出していけるような話し合いがしていけたら有り難いと思っている。

(会長) 中々子どもは忙しいので、何か子ども達と、特に中学生ぐらいだと交流が中々難しいが、そういうのを皆でやれると大変いいことかなと思ったりしている。

皆様のご意見を伺ったが、今のところこれはという優先課題は中々決めかねるので、今日の皆様のご意見を基に今後詰めていくということで今日は打ち切りたいが、よろしいか。

まち協とは何かという辺りも本当に大事なところだと思うが、まち協の本当の動きとは何なのか、市内15ほどまち協があるので、私も他のところはどんなことをしているのか見てみたいと思う。

(委員) 次回の会議までに、まち協としてこれから取り組んでいくのかいかないのかは別として、直近の課題的なものは地域の福祉の強化から世代間交流まで幾つか出ているので、ある程度2つぐらいに絞って、例えば世代間交流なら世代間交流という目標に向かってどういう世代間交流があるのか、将棋でもいいし、スポーツでもいいし、ゲームでもいいし、世代間交流をするためにはどんなことがあるのかみたいなことをそれぞれ皆少し持ち寄っていただければもう少し詰まると思う。

- (会長) ご意見が沢山出ていたので、皆さんそれぞれ頭の中で整理したら、これは大事だというのが出てくるかと思ったが、今、例えば世代間交流なら世代間交流についてどのような交流ができるのかという辺りを考えてみたらどうかという話があり、それはそれでいいと思うが、いかがか。
- (委員) 他の課題でも何でもいいので、次回までそれぞれ皆さん考えてきて持ち寄った方が少し話が進みやすいのではないかと感じる。
- (会長) いきなり整理するのは難しいので、皆さん感じたところということで申し上げたが、例えば世代間交流について考えてきてもらった方がいいのではと。そのほかにもまだ独居老人のこととか色々あるので、それはそれとしてこれは大事だということを考えてほしいということで提案したが、一つは複数の方から出ている世代間交流についてはどうだろうかということで。
- (委員) スポーツクラブで世代間交流事業をやる予定なので、中身の提案はできる。次回まち協の時にはチラシができて募集していると思う。10月に実施予定の事業だったが、ちょっと日にちがなくて12月でやろうかと思っている事業を、次回こんなふうになっているということで提案をさせていただこうと。
- (会長) 沢山出たが、世代間交流的なものについて中身はどうかということをやってはどうかという話や、福祉、独居だけではないが独居老人や引きこもりの人に対する取組みみたいなものなどもある。そのようなことも含めて、さらに本質的な、まち協とはどういう活動をするのがまち協らしいか、その辺りを考えながら次回を迎えたいと思うが、よろしいか。
今日はここまでとして、色々意見が出たので、これを基にまた次回考えていきたいと思うので、よろしく願いしたい。